

# び・わ・こまるごとプロジェクト2 (中間報告)

## TANAKAMIこども環境クラブ

### 地域の現状

- ・田上地域は琵琶湖流域の上流に位置し、多様な自然が残る。
- ・過疎化・農業従事者減少により水辺管理が困難に。
- ・子どもの自然離れが進み、流域の環境を体験する機会が減少。

### 地域課題

- ・流域全体の健全性を理解する次世代育成が不足。
- ・地域の自然・文化・産業を学ぶ場が必要。

### 目的

- ・琵琶湖に直接触れる体験を通じて季節変化と生態系を学ぶ。
- ・地域住民・専門家と協働し、保全に主体的に関わる人材を育成。
- ・流域から湖へ続く環境を守る意識を育む。



4月18日 (日)



雄琴

オーパルオブテックス周辺

カヌー水質調査①・プランクトン観察①  
春/夏/秋と3シーズンプランクトンを調べる野を目的としています。。春の主役は、ノロでした。  
沖と湖岸、2箇所での採水をした。  
ノロを見つけたことをよろこんでいた。

SUPで水辺で楽しくあそんだ後、湖岸のゴミや漂着物を回収する調査を行った。子どもたちは、プラスチック片・発泡スチロール・ロープ・食品容器など、実際に湖に流れ込んだゴミを自分の手で拾い集め、種類ごとに分類した。

回収後は室内で、

- ・ゴミがどこから来るのか
- ・どのように細かく砕けてマイクロプラスチックになるのか
- ・生き物や人の生活にどんな影響があるのかを学び、湖の環境問題を「体験→観察→理解」へとつなげる学習を行った。

SUPでの活動は、楽しさと同時に「水辺の環境を守る責任」を実感できる内容となった。

6月14日 (日)

8月9日 (日)



雄琴

オーパルオブテックス周辺

カヌー調査②・プランクトン比較。  
小さな子も参加して楽しんでもらった。

8月10日 (月)

琵琶湖真珠学習 琵琶湖博物館にて

- ・展示されたイケチョウガイの標本を見て、「もう琵琶湖にいないの？」と驚いた表情を見せる。
- ・在来種と外来種の貝の違いを比べながら、「どうして外来種が増えたんだろう」と疑問をもった。
- ・学芸員の説明を聞きながら、メモを取りつつ「自然が変わると産業も変わるんだね」と気づきを共有する。
- ・最後のふりかえりでは、「琵琶湖を守ることは、そこで働く人の仕事も守ることなんだ」と話す子もいた。